

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1139 号	氏名	今村 圭吾
学位審査委員		主 査	根本 孝幸
		副 査	筑波 隆幸
		副 査	吉村 篤利
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p><i>Porphyromonas gingivalis</i> は 9 型分泌機構を有し、この機構にて病原タンパク質を分泌している。本研究は、9 型分泌機構と密接な関わりのある <i>Flavobacterium johnsoniae</i> の colony spreading (CS) についての研究で、環境因子による CS の抑制のメカニズムについて解明したものであり、その研究目的は妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>CS の現象を捉えた上で、トランスポゾン・ミュータジェネシスという遺伝学的手法を用いて、環境因子による CS の抑制に関わる遺伝子を同定した。さらに、その遺伝子がコードしたタンパク質の役割・エネルギー源などを各種解析にて行った。以上から、本研究目的を明らかにする上で、一連の研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、環境因子である glucose による CS の抑制は、<i>mfsA</i> 遺伝子が深く関わっていることがわかった。また、<i>F. johnsoniae</i> において、<i>mfsA</i> は、唯一の glucose transporter である可能性が高いこともわかった。</p> <p>CS に直接的に関わる遺伝子の同定は先行研究で行われている。しかし、環境因子による CS 抑制のメカニズムを解明したのは初めてであり、細菌の運動に関わる研究を大きく発展させた。</p> <p>以上のように本論文は口腔細菌学・歯周病学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			